

第2回アジア太平洋地域水文水資源国際会議(APHW)報告



研究第四部長 前田 諭

1. 開催概要

「アジア太平洋地域水文水資源国際会議 (APHW) (Asia Pacific Association of Hydrology and Water Resources)」は、アジア太平洋水文水資源協会(会長: 虫明功臣福島大学教授 設立:2002. 9) が主催となり、アジア太平洋地域に特有な気候条件と流域条件、治水・利水問題、環境問題などについての情報を共有し、かつ水環境、水資源に関する教育と研究の交流や技術協力を行うための基礎を確立することを目的として設立されました。

第1回は2003. 3月に世界水フォーラムと併せ京都で開催され、今回の第2回目の開催はアジア・大洋州地球科学学会 (AGOS) と共催してシンガポールで開催されました。

今回の開催期間は、7月5日から7月8日の4日間で、APHWにおいては、約250編の発表及び約200編のポスターセッションが行われました。

2. 会議のテーマ



開会の様子

この会議では、以下の8つのテーマに関する発表が行われました。

(1) 気候変動と災害

モンスーンアジアの降雨メカニズム、エルニーニョの影響 等

(2) 水利用・管理に関する過去からの教訓

地域における水利用の歴史と課題、水管理に関する経験の共有 等

(3) 地域の特徴と水問題

水収支、水文気象、気象・水文極値、大陸及び変動帯における河川水文 等

(4) 安定的な水資源の利用

灌漑システムにおける水利用効率、水質保全と汚濁対策

(5) 賢明な水管理に向けて

湿潤及び乾燥地帯における都市の水文、総合的な水資源、流域管理 等

(6) 水資源の開発

貯水池の計画と管理、水力開発

(7) 洪水、水質と河川管理

都市における治水・利水・環境問題 等

(8) その他

地域の水文における環境、生態学的側面、教育、技術移転、能力開発 等

3. 発表の概要

この会議において「鶴見川を事例とした水循環の健全化を目指した総合的流域水循環について」と題し発表を行いました。

(1) 概要

都市河川である鶴見川は、様々な問題により流域の水循環系の健全さが著しく失われつつあります。健全化に向け、その取り組み方策と考え方、流域意識の醸成手法、持続的推進のマネジメントシステム



発表の様子

の採用など、総合的な施策展開による地域社会の形成を目指す手法及び形成過程とそれらに係る配慮事項について述べました。

4. 会議の意義

水文・水資源学は、ヨーロッパや北米を中心に発展、体系化されてきました。しかし、多雨、湿潤地帯で山岳や火山、その下流に沖積洪積平野が連なるアジア地域では、その欧米の手法だけでは解決することが難しい特有の課題があります。本会議において、アジア太平洋地域の研究者、専門家が、幅広い分野における地域特有の課題を持ち寄り活発な議論を行いました。今後、この会議における議論、情報交換を更に重ねていくことによりアジア地域の特性に基づく研究の体系化と固有の問題の解決へと繋がっていくものと考えます。